

令和7年度国際文化交流学科一般選抜（前期日程）

小論文

I. 出題意図

現代社会の重要な課題である「地域格差」と「観光振興」という二つの要素を結びつけた文章から出題した。解答にあたり本文を正確に理解し、筆者の意図を読み解く能力と、筆者が提示する視点に基づいて自分の考えを整理し、論理的思考と批判的視点をもって自らの意見を記述する能力が求められる。

〔問1〕 解答例

観光には歴史文化の尊重や多文化共生など多様な価値があり、地域社会に貢献できる可能性がある。しかし現実には地域間格差の悪化に陥っており、筆者は観光の多面的な価値が十分に活かされていないと指摘する。

〔問2〕 解答例

筆者は観光による地域活性化を単純に否定しているわけではなく、観光の多様な価値を認めている。その一方で、観光依存の危険性を指摘し、地域の実情に応じた多様な取り組みが必要であると考えている。

〔問3〕 出題意図

筆者の論点を理解した上で、自身の経験や知識をもって、論理的思考と批判的視点に基づいた具体的な論述ができるかについて確認するため、以下の事柄を評価のポイントとする。

- 自らの主張が明確に示されている。
- 主張の根拠が具体例や実際の経験に基づいている。
- 文章が論理的に展開されている。

出題意図

大問Ⅱ

米国の政治哲学者の執筆した、能力主義に関する功罪を考察した著書からの出題である。出題範囲は米国内で深刻化する人種間の亀裂には共同体意識の希薄化が大きく作用しており、その背景には市場主義経済とそれに親和的な能力主義思考があるとする章の抜粋である。

問1 解答例

米国内から各種衛生用品の製造拠点を奪ったグローバル市場経済は、以前から国内にある工場の海外移転を加速させており、その結果、良質な雇用が奪われ、労働者の自尊心を損なっていた。他方、市場経済における競争の勝者は、同じ国に暮らす人々を生産者や消費者として頼らなくなり、地域社会とのつながりを希薄化させた。このように競争の勝者と敗者との社会的距離を拡大させるグローバル市場経済が、潜在的な亀裂を生んでいた。(199文字)

問2 解答例

(1) 筆者の考えの要約例

開放的社会において政府は、経済的成功の基盤を形成する教育を全国民が平等に受ける機会を提供する義務を負う。しかし教育の機会均等には、結果としての勝者が過大な自己評価を抱き、失敗は自己責任であるとみなす危うさを抱えている。このような勝者万能的、自己責任論的な考え方がこのスローガンを空疎なものにすると同時に、グローバル化に取り残された人たちが現状に怒りを抱き、反エリート・排外主義を唱える権威主義的ポピュリストに引き寄せられる事態を招いている。(220文字)

(2) 各自の意見に関する評価の観点

自らが要約した筆者の考えに対する意見が明確であるか、その根拠が論理的に展開されているか、出題文からの引用に終始するのではなく自らの言葉での論述となっているか、読み手の理解を意識した文章であるか、という4つの観点から評価を行った。